

# 2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

記入日 平成21年1月20日

## 1. 概要

実践団体名	奈良市立帯解小学校		
連絡先	※0742-62-4411		
プランタイトル	帯解小防災教育チャレンジプラン		
プランの対象者	小学生（低学年・高学年） 保護者・PTA	対象とする 災害種別	地震

### 【プランの目的・ここがポイント！】

- ・地震についての正しい知識と防災の意識を高める
- ・震災体験談から、命の大切さや防災について考える

### 【プランの概要】

・平成18年度1月に奈良県より出された「奈良県学校地震防災教育推進プラン」をもとに各学年や全校での実践を進めた。年間を通しての避難訓練を繰り返し実施した。非常食作り、防災頭巾、安全マップ作りなど楽しい体験を通して、地震への備えについて学んだ。震災体験をされた方を、講師として招聘し豊かな感性を培った。

### 【期待される効果・ここがおすすめ！】

- ・地震について正しく理解し、防災についての意識が高まった。
- ・講師の方の思いを知り、感性豊かな心を培うことができた。
- ・ボランティア活動に触れ、人のために生きることの素晴らしさや、命の尊さに気づくことができた。

## 2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

### 2. プランの年間活動記録

	プランの 立案と調整	準備活動	実践活動
2008年 6月	避難訓練等の年間 を通した計画立案		安全に避難しよう
2008年 7月	関係教諭による会 議	講師の方との打ち合 わせ	震災体験談から自分でできることを 考えよう ワンポイント避難訓練
2008年 8月	関係教諭による会 議	PTA との避難訓練につ いての打ち合わせ	避難訓練及び引き渡し訓練
2008年 9月			避難訓練
2008年 10月			
2008年 11月	関係教諭による会 議		
2008年 12月		防災頭巾作り、非常食 作りの打ち合わせ	防災頭巾作り 非常食作り
2009年 1月	関係教諭による会 議	帯解消防団との打ち合 わせ	避難訓練 帯解消防団の仕組みとその仕事 地震から知ろう 帯解安全マップを作ろう

## 2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

### 3. 実践したプランの内容と成果

#### 【実践プログラム①】

タイトル	非常食を作ろう
実施月日（曜日）	平成20年12月15日（月）
実施場所	家庭科室・運動場
担当者または講師	担当者・講師等の区分：教諭 氏 名：中 忠勝 所属・役職等：5年生24名
所要時間または 「コマ数×単位時間」	2コマ×45分
プログラムの カテゴリ、形式	総合的な学習の時間
活動目的	災害を想定した訓練
達成目標	地震の際の様子や非常食の作り方について学ぶ
実践方法・進め方 （箇条書き、または フロー）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本赤十字の方に来ていただき、地震の時の様子について話を聞く</li> <li>・自分たちで育てた米を使用し、ハイゼックスに詰め米を炊いた</li> <li>・感想を出し合う</li> </ul>
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	<人材>日本赤十字奈良支部の方 プロパンガス
参加人数	24人
経費の総額・内訳概要	0円
成果と課題	<p>【成果】被災した際の様子がよくわかり、その様子について理解することができた。</p> <p>【課題】楽しく非常食作りができたが、まだまだ実感をともなっていない。</p>
成果物	

## 2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

### 【実践プログラム②】

タイトル	防災頭巾作り
実施月日（曜日）	平成20年12月9日（火）
実施場所	家庭科室
担当者または講師	担当者・講師等の区分：教諭 氏 名：松山いづみ ・中 忠勝 ・奥西康子 所属・役職等：5・6年担任 少人数担当
所要時間または「コマ数×単位時間」	2コマ×45分
プログラムのカテゴリ、形式	総合的な学習の時間 出前事業
活動目的	遊び・楽しみながらの防災
達成目標	防災頭巾作りを通して、防災に対する意識を高める。
実践方法・進め方（箇条書き、またはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 防災頭巾の役割、防災頭巾の作り方の説明</li> <li>・ 防災頭巾を作る</li> <li>・ 感想、まとめ</li> </ul>
準備、使用したもの ・ 人材 ・ 道具、材料等	<p>&lt;人材&gt;日本赤十字奈良支部の方 布（キルティング）、綿テープ、マジックテープ、裁縫道具、ミシン</p>
参加人数	5・6年生50名
経費の総額・内訳概要	
成果と課題	<p>【成果】災害時、頭部の安全を図ることの重要性が分かり、防災に対する意識が高まった。</p> <p>【課題】防災頭巾を身の周りに置き、防災意識を持ち続ける。</p>
成果物	防災頭巾

## 2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

### 【実践プログラム③】

タイトル	地震を知ろう
実施月日（曜日）	平成21年1月29日（火）
実施場所	図書室
担当者または講師	担当者・講師等の区分：教諭 氏 名：中 忠勝 ・松山 いづみ 所属・役職等：5・6年担任
所要時間または 「コマ数×単位時間」	2コマ×45分
プログラムの カテゴリ、形式	総合的な学習の時間
活動目的	防災に関する知識を深める
達成目標	地震が起きるメカニズムを知る
実践方法・進め方 （箇条書き、または フロー）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Power Pointによる地震のメカニズムの説明</li> <li>・具体物を使用しての断層の実験</li> </ul>
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	<人材>奈良地方気象台の方
参加人数	5・6年 50名
経費の総額・内訳概要	0円
成果と課題	【成果】  【課題】
成果物	

## 2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

### 【実践プログラム④】

タイトル	帯解消防団の仕組みとその仕事
実施月日（曜日）	平成21年1月14日（水）
実施場所	帯解分団倉庫前
担当者または講師	担当者・講師等の区分：教諭 氏 名：藤原新子 所属・役職等：3年担任
所要時間または「コマ数×単位時間」	2コマ×45分
プログラムのカテゴリ、形式	総合的な学習の時間
活動目的	防災に関する知識を深める
達成目標	地域の消防団の仕事を知る
実践方法・進め方（箇条書き、またはフロー）	・地域の消防団の方をお願いして、分団の倉庫を開いていただき、地域防災の仕組みを聞く。消防団の人に質問をする。
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	<人材>消防団の方
参加人数	3年生 18名
経費の総額・内訳概要	0円
成果と課題	【成果】地域密着型の活動なので、児童が「自分も大人になったら同じことをするんだ」と、実感することができた。 【課題】児童の保護者全員が分団に所属し、活動しているわけではないので「消防団」は特別な仕事ととらえる一面があった。
成果物	

## 2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

### 【実践プログラム⑤】

タイトル	帯解安全マップを作ろう
実施月日（曜日）	平成21年1月27日（火） 1月30日（金） 2月3日（火）
実施場所	教室 校区内
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担任 特別支援担当 氏 名：中井温子 寺井善貴 所属・役職等：教諭
所要時間または 「コマ数×単位時間」	4コマ×45分
プログラムの カテゴリ、形式	総合的学習の時間
活動目的	防災に関する知識を深める
達成目標	自分たちの校区の中で、災害時に気をつける所を知る。
実践方法・進め方 （箇条書き、または フロー）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちの町（通学路など）で災害時の危険個所を見つける。</li> <li>・マップに書き込む。</li> <li>・どうすれば危険を避けることができるか、さまざまな方法を考える。</li> <li>・今ある防災施設についても、マップに書き込む。</li> <li>・校内に掲示して朝会などで呼びかける。</li> </ul>
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校区地図</li> <li>・デジタルカメラ</li> <li>・防災施設の配置図</li> </ul>
参加人数	4年生26名
経費の総額・内訳概要	
成果と課題	【成果】【課題】
成果物	安全マップ

## 2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

### 【実践プログラム⑥】

タイトル	地震から自分の命を守ろう
実施月日（曜日）	平成20年7月7日（月）
実施場所	体育館 図書館
担当者または講師	担当者・講師等の区分：教諭 氏 名：中 忠勝 所属・役職等：5年担任
所要時間または「コマ数×単位時間」	4コマ×45分
プログラムのカテゴリ、形式	総合的学習の時間 出前授業
活動目的	遊び・楽しみながらの防災 防災に関する知識を深める
達成目標	防災についての知識を学びボランティアの活動を知る。
実践方法・進め方（箇条書き、またはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ひまわりおじさんから防災についての話を聞く</li> <li>・ 楽習迷路体験</li> <li>・ 中越地震でのボランティア体験談を聞く</li> <li>・ 感想</li> </ul>
準備、使用したもの ・ 人材 ・ 道具、材料等	<人材>ひまわりおじさん
参加人数	全校生徒150名
経費の総額・内訳概要	26000円 講師謝礼及び交通費
成果と課題	<p>【成果】迷路により楽しみながら地震体験をすることができた。人のために生きることの素晴らしさをまなぶことができた。</p> <p>【課題】迷路は全校児童で楽しんだが、高学年には、少しやさしかったかもしれない。</p>
成果物	安全マップ



## 2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

### 【実践プログラム⑦】

タイトル	震災体験談から自分のできることを考えよう
実施月日（曜日）	平成20年7月1日（火）
実施場所	図書館
担当者または講師	担当者・講師等の区分：教諭 氏 名：中 忠勝 ・松山 いづみ 所属・役職等：5・6年担任
所要時間または 「コマ数×単位時間」	2コマ×45分
プログラムの カテゴリ、形式	総合的学習の時間
活動目的	防災に関する知識を深める。
達成目標	震災体験談から命の大切さを学び自分でできることを考える。
実践方法・進め方 （箇条書き、または フロー）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・震災体験談を聞く</li> <li>・質問を聞く</li> <li>・感想を出し合う</li> </ul>
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	地球防衛隊の方
参加人数	5・6年 50名
経費の総額・内訳概要	10000円 講師謝礼
成果と課題	<p>【成果】震災体験談から震災の怖さを知るとともに、それに立ち向かった人々の力強さを知ることができた。</p> <p>【課題】個々それぞれに感じ方が違い、思いを深めきることができなかった。</p>
成果物	

## 2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

### 【実践プログラム⑧】

タイトル	避難訓練
実施月日（曜日）	平成20年5月13日・7月17日・8月23日・9月5日 平成21年1月15日
実施場所	校舎 運動場
担当者または講師	担当者・講師等の区分：全教諭・講師 氏 名：省略 所属・役職等：全職員
所要時間または 「コマ数×単位時間」	5コマ×20分
プログラムの カテゴリ、形式	イベント・行事
活動目的	避難経路の確認および安全に迅速に避難するためのスキルの向上
達成目標	全員が安全に避難できるスキルをマスターする。
実践方法・進め方 (箇条書き、または フロー)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学級担任による避難経路の確認や安全な避難方法の理解の徹底を行う。</li> <li>・避難後の自分の行動の反省、改善点考える</li> <li>・専門家の人に安全についての話を聞き安全についての意識を高める。</li> </ul>
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	<人材>消防署の方 消火器 地震マップ 緊急連絡カード
参加人数	全校児童150名
経費の総額・内訳概要	0円
成果と課題	<p>【成果】迅速に避難を行えるようになった。 地震災害についての理解が高まった。</p> <p>【課題】現実に起こった状況がなかなかリアリティーを持って体験できない。</p>
成果物	

## 2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

### 4. 苦勞した点・工夫した点

<p><b>プランの立案 と調整で 苦勞した点 工夫した点</b></p>	<p>&lt;苦勞&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小規模校なので、行事の実施に全校単位での時間調整が必要。全校単位で実施した防災教育以外、各学年で実施した防災教育を全校で共有できる時間を取れなかった。</li> </ul> <p>&lt;工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「時間を取って学習する」から「いつでも見に行ける防災教育」という考えに変更し、学校のどの場所においても授業をのぞくことができるようにした。</li> </ul>
<p><b>準備活動で 苦勞した点 工夫した点</b></p>	<p>&lt;苦勞&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・避難訓練以外の活動は、ほとんどの教師が初体験であった。知識だけが先行し、子どもが心から納得できる教材作りが難しかった。</li> </ul> <p>&lt;工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師が「防災教育をする」と考えるのではなく、「子どもより少し深く体験する」をモットーに、児童と共に考え、体験するようにしたこと。</li> </ul>
<p><b>実践に 当たって 苦勞した点 工夫した点</b></p>	<p>&lt;苦勞&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・非常食作り、防災頭巾、ひまわりおじさんの迷路など、実践することが楽しくなり、本当に防災意識を高めるところに持っていくことが大変だった。</li> </ul> <p>&lt;工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・担任、担任外、地域の人材、講師の方など、授業を実施するものを変えた。児童は目先が変わると授業内容に興味を示した。また自分たち大人が、共通の体験や災害時の決まりごとや、一番困ったことを授業に随所にちりばめることで、授業が横につながり、児童が「あの先生と同じことを言っているな。」と感じ、子どもの理解が深まったように思う。</li> </ul>

## 2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

### 5. 他の団体、地域との連携

協力・連携先の分類	団体名、組織名	協力・連携の内容
学校・教育関係・ 同窓会組織		
保護者・ PTAの組織	保護者 PTA	体験学習の支援
地域組織	帯解消防団	地域防災の講師
国・地方公共団体・ 公共施設	日本赤十字奈良支部 奈良地方気象台	体験学習等の講師 体験学習の準備・活動支援
企業・ 産業関連の組合等		
ボランティア団体・ NPO法人・NGO 等	NPO 法人ひまわりの夢企画 地球防災隊	体験学習等の講師 体験学習の準備。活動支援
職業、職能団体・ 学術組織、学会等		

## 2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

### 6. 成果と課題（実践したプラン全般について）

<p><b>成果として 得たこと</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちが地震災害を自分の身近なこととして捉えることができた。</li> </ul> <p>地震に限って言えば、今の子どもたちは阪神・淡路大震災を直接知らない。テレビなどにあふれ出る震災のニュースや体験談を耳にすることで、「怖い、大変という気持ちが先行していた。しかしそこから一歩進んで、児童は「自分は何ができるか。」を考えることができた。「まず自分の身の安全を確保する」から、「赤ちゃんである妹だけは抱いて逃げたい」と、感想を述べた児童がいた。</p>
<p><b>全体の反省・ 感想・課題</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体験ありきではなくまず心構えを作る</li> </ul> <p>体験学習は非常に有効であるが、いつもと違う体験をするだけで学習を終えることがあった。例えば「非常食を作る」のではなく、「非常食が必要な理由、必要な道具、自分たちが住んでいる所ではどこに行けば道具が揃うのか」等の体験の前学習への心構えを、児童が作っておく必要があった。</p>
<p><b>今後の 継続予定</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度の学習内容を精選し各学年で防災教育の中心となる内容を決め、それを中心とした事前事後学習を組み立てたい。</li> </ul>

## 2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

### 7. 自由記述欄 ①

避難訓練について

避難訓練は、今までも計画的に行ってきたが、地震に的を絞った訓練を続けることで子どもたちの意識も少しずつ変化してきたと思われる。ただ教師も含め現実の地震災害の体験をしていないので、どれほどの対応をとれるかは、未知数である。しかし被害を最小にとどめるためにも引き続きの訓練は必要であることが実感として理解してきた。



ガラスが散乱したことを想定しての  
訓練



保護者への児童引き渡しの訓練

## 2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

### 7. 自由記述欄 ②

地震から自分の命を守ろう

ひまわりおじさんから地震が起こった時の備えについての話を聞き、楽習迷路で楽しく避難の時間が大切かについて学んだ。その後高学年は、中越地震の際のボランティアの体験談を聞き、災害の様子やその際にどのように行動すればみんなのためになるかを学んだ。このことは児童にとって、人のために頑張ることの素晴らしさを学ぶことにもつながった。



楽しく迷路を進む子どもたち。楽しみながら大切なことを学習できる機会であった。

## 2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

### 7. 自由記述欄 ③

#### 防災頭巾・非常食米づくり

防災頭巾については、何か昔のイメージを持っていたが、子どもたちは楽しく頭巾作りに取り組めた。作っている間は、防災のことを忘れていた児童もあったが、出来上がった頭巾を避難訓練で使用したり、いつも机の横に置いていたりすることで、地震のことを身近に感じることができている。

非常食作りについても子どもたちにとっては、スーパーの袋のようなもの（ハイゼックス）でお米が炊けることは驚きであった。しかしそのことよりも、みんなで協力することの大切さと、今あるものを自分たちの知恵で工夫する大切さを学べたことは、大きな収穫であった。



楽しく防災頭巾を作った。



赤十字の方から防災頭巾や非常食の作り方を学んだ。プロの色々な知識や技術に子どもたちからは感嘆の声が上がった。